

平成31年度(令和元年度) 全国学力・学習状況調査における

北九州市立 洞北 中学校の結果分析と今後の取組について

文部科学省による「全国学力・学習状況調査」について、平成31年4月18日(木)に、3年生を対象として、「教科(国語、数学、英語)に関する調査」と「生徒質問紙調査」を実施いたしました。

この度、本年度の調査結果を分析し、今後の取組についてまとめましたので、お知らせいたします。

学校の現状を知っていただくとともに、ご家庭での取組の参考にさせていただきたいと思います。

なお、本調査により測定できるのは、学力の特定の一部分であり、学校における教育活動の一側面に過ぎません。本校では、他の教科等も含め、総合的に学力向上を目指しています。

1. 調査の目的

- (1) 義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2) 学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。
- (3) そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2. 調査内容

- (1) 教科に関する調査(国語、数学、英語)

主として「知識」に関する問題	主として「活用」に関する問題
・身に付けておかなければ後の学年等の学習内容に影響を及ぼす内容	・知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力
・実生活において不可欠であり、常に活用できるようにになっていることが望ましい知識・技能	・様々な課題解決のための構想を立て実践し、評価・改善する力

※全ての実施教科で、主として「知識」に関する問題と主として「活用」に関する問題を一体的に問うようにしています。

- (2) 生徒質問紙調査

生徒質問紙調査
○学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査

3. 教科に関する調査結果の概要

(1) 全国・本市の学力調査(国語、数学、英語)の結果

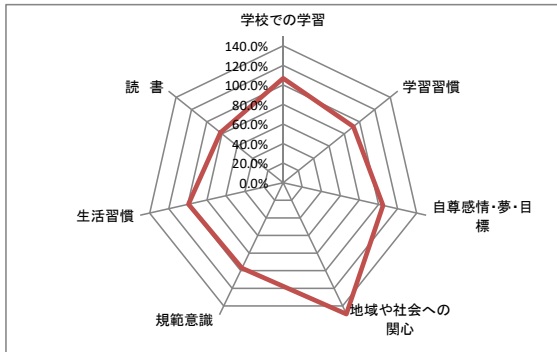
本年度の結果	国語		数学		英語	
	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率	平均正答数	平均正答率
本市	6.9	69	8.9	56	10.6	51
全国	7.3	73	9.6	60	11.8	56

※英語「話すこと」調査に関しては、参考値のため、集計から除外している。

(2) 本校の学力調査結果の分析

国語	全体的な傾向や特徴など	文章の構成や展開、表現の仕方について、根拠を明確にして自分の考えをもつ問題に課題がある。当該問題の無回答率の高さも課題である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	話し合いの流れを踏まえ、自分の考えを書き加えたり、意見文の下書きに自分なりの意見を書き加える問題は比較的よくできている。	下回っている
	努力が必要な問題	語の一部を省いた表現についての説明として適切なものを選択する問題については努力が必要である。	
数学	全体的な傾向や特徴など	平均正答率を見たときに、正答できるであろう問題を正答できていないことが多い。問題に慣れることが必要であると考ええる。また、記述式の問題の正答率が他の問題に比べて低い。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	ある予想に対して与えられた図が反例となっていることの説明として正しいものを選ぶ。	下回っている
	努力が必要な問題	四角形ABCDがどのような四角形であれば、 $AF=CE$ になるかを説明する。	
英語	全体的な傾向や特徴など	英語を「話す」力については全国平均を上回っており、無回答率も低い。一方で、英語を「書く」力や「読む」力に課題が残る。平均正答率を見たときに、正答できるであろう問題を正答できていないことも課題である。	全国平均正答率との比較
	よくできた問題	海外のテレビ局の要望に応じて、自分の将来の夢、またはやってみたいこと等を話す。	下回っている
	努力が必要な問題	文中の空所に入れる接続詞として、最も適切なものを選択する。	

4. 学校での学習活動、家庭での生活習慣等に関する質問紙調査結果の概要



質問紙調査の結果分析
「人の役に立つ人間になりたいですか」「毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか」「毎日、同じくらいの時刻に起きていますか」「家で、学校の宿題をしていますか」という質問に対し、「そう思う」「ややそう思う」の生徒数の割合が県・全国に比べ若干上回っている。一方、「家で、学校の授業の予習・復習をしていますか」という質問に対し、「そう思う」「ややそう思う」の生徒数の割合は県・全国に比べ若干下回っている。

5. 調査結果から明らかになった、課題解決のための重点的な取組

① 教科に関する取組(全校で・学年で・学級で)

「話し合う活動」を通して、本校の研究主題「主体的・対話的で深い学びを実現する授業の創造」を実現させ、伝えたい事柄を相手に分かるように表現する力、必要な情報を選択し、的確に処理する力を伸ばす。

② 家庭生活習慣等に関する取組

家で学校の授業の予習・復習をする生徒の数に課題が見られるため、自学ノートの活用を徹底する。